

武蔵野市学習者用コンピュータ通信

第 33 号

発行

武蔵野市教育委員会指導課
令和5年11月

市ホームページにも、これまでのバックナンバーを含め掲載しております。

「学習者用コンピュータ通信」を検索していただくか、QRコードでアクセスしてください。



学習者用コンピュータ通信

検索



疑似 SNS 運営によるデジタル・シティズンシップ教育が行われています

市内の小学校の4年生の学級で、「デジタル上で人と上手にコミュニケーションをとる」ことを目標に Google クラウドルームを活用した学級内疑似 SNS に取り組んでいます。運営のルールとして、以下の4つが学級内の話し合いによって決められました。

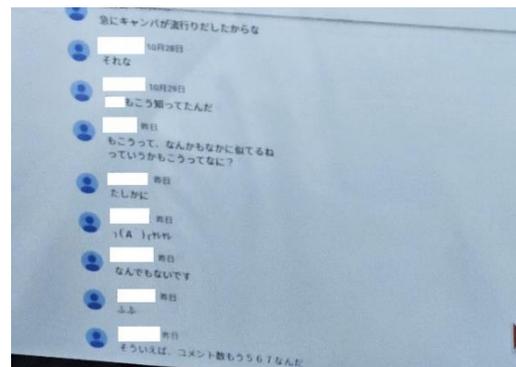
- 誰もが楽しい気持ちになるものを投稿する。
- 担任の先生に、何の学習に関係しているか説明できる内容にする。
- 投稿してよい時間は7時~20時までにする。
- 週に1回、使い方を全員で振り返って、必要があればルールを変える。

運営当初は、毎週のように投稿の内容やコメントが原因でトラブルが起きていたそうです。しかし、その都度、子どもたちが適切な投稿の方法を話し合っ問題解決してきたことで、次第に相手のことを考えながら投稿できるようになり、今ではトラブルも減少しました。

授業視察に伺った日も、これまでの投稿の内容が適切かどうか学級で話し合っていました。「替え歌は作った人に失礼だと思うから、投稿するのはやめよう。」「動画の背景に、家の様子が映っているから気を付けたほうがいいと思う。」「コメントに『気持ち悪い』って書いてあるのは誤解を生むと思う。」など、誰もが楽しい気持ちになる投稿になっているか、自分たちで振り返っていました。



【投稿内容を振り返る様子】



【疑似 SNS の投稿の様子】

また、話し合いの中で著作権などの法律に関する内容や、動画の背景を無くす技術的な方法など、子どもたちが必要性を感じた内容について、担任の先生が適宜指導していました。

中学生になると私物の端末で SNS を使用する機会が増え、トラブルに巻き込まれることも増える傾向にあります。小学生のうちから、SNS の使い方を大人の目の届く範囲で学ぶことは将来トラブルを回避するためにも重要です。子どもたちは、成功や失敗を経験しながらデジタル上で上手にコミュニケーションをとる方法を学んでいました。

(裏面あり)

学習以外でも生徒会活動に学習者用コンピュータが活用されています

市内の中学校の生徒会活動に、学習者用コンピュータが活用されています。

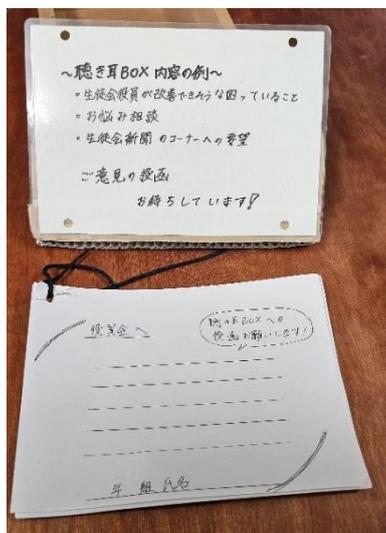
【活用事例①】生徒総会のオンライン開催

数年前までは、体育館に全員が集まり開催されていましたが、コロナ禍の影響で昨年度から、オンラインで開催しています。生徒会本部役員や議長団は別室からオンラインで総会を配信し、子どもたちは各教室から参加します。会場の体育館に生徒全員が移動する時間が無くなったため、総会の時間を多く確保できる、画面に向かって話すので登壇者が緊張せず話すことができる、といったメリットがありました。

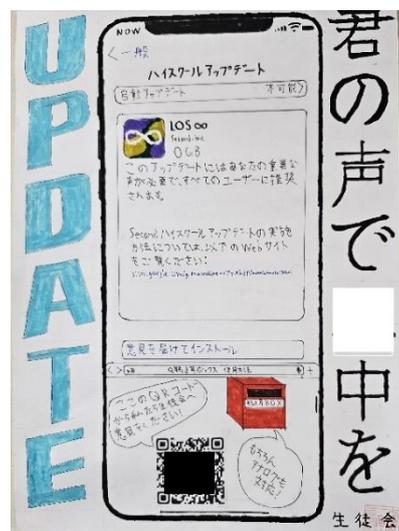
一方、聞き手の表情が見えず反応が分からないため話しにくいといったデメリットもありました。生徒会本部役員の一人に話を聞くと「私たちは対面での生徒総会を経験していない。来年は対面で実施して、オンラインとどちらがよいか比較したい。」と次回に向けて意気込みを語ってくれました。

【活用事例②】「生徒の声」を聞く意見ボックスの電子化

この学校では、以前から生徒会本部が「生徒の声」を聞くために、意見ボックスを設置していました。今年度からより多くの「生徒の声」を聞くために、Google フォームでも回答できるように改革を進めました。



【従来の方法】



【二次元コードを活用した呼びかけ】

従来通りの紙による方法に加え、Google フォームでも意見が出せるようになったことで、多ヶ月で10件以上集まるようになったそうです。ここで集まった意見は生徒会本部役員が集約し、学校に対する要望に関しては教員と内容を協議しています。

【活用事例③】生徒会ホームページの作成

生徒会本部役員が運営するホームページが作成されています。生徒会本部主催の行事のお知らせや年間行事予定などが掲載されています。生徒会本部からの情報発信に活用されています。

この他にも、新旧役員の引継ぎの際に Google ミートを活用する等、子どもたちが主体的に学習者用コンピュータを活用し、生徒会活動の活性化を図っていました。